

教科等研究会(小学校社会部会)

令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

児童が主体的に思考・判断し、表現する社会科学習の創造
～上益城の素材を活かした「問題解決的な学習」を通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回				第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	授業者	期日	人数	場所
6/3	31人	中島小	8/8	27人	広安西小	10/15	25人	龍野小	永野秀幸	1/23	30人	広安西小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究主題設定の理由

・本研究部会のあゆみ

本研究部会では、学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にしたい問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にしたい学習の取組は、多角的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの取組の成果をふまえ、上益城の県学力調査による傾向と分析、上益城郡教科等研究会の全体テーマも考慮した上で、社会科における言語活動の充実を図りながら、児童が習得した知識や技能をもとに思考・判断し、表現することのできる授業づくりをさらに充実させていきたいと考えた。

また、本研究部会では、「生き方を求め合う」や「未来を育む人間を育てる」などにあるように『人間の生き方に迫る』という点にこだわって教材を開発したり授業展開を考えたりしてきた。

・これからの社会科学習に求められるもの

「知識基盤社会（新しい知識、情報、技術が政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会）」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの変換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がますます重要であると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、それはそのまま求められる人間像でもある。

今年度は、来年度から始まる新学習指導要領への移行期間である。新学習指導要領のキーワードは「主体的・対話的で深い学び」の実現であるが、このことは、社会科においては知識・技能を活用することで思考力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すものであり、それらは問題解決的な学習による学びの必要性を示唆している。

また、国内外の学力に関する調査結果からも、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に、徐々に改善されつつあるものの、やはり課題が考えられることが明らかとなっている。今後も習得した知識や技能をもとに、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

② 研究の視点

視点1 「人間の生き方に迫ることのできる教材開発」

上益城郡がこれまでこだわって「学び」にしてきた部分である。学習指導要領のねらいを達成するために、何を学ばせるのか、自分の生き方にどうつなげていくのかを明確にし、

地域人材を活用して人間の生き方に迫る。

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方に学び、自らの生き方を考えるという本質を持つ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。

本研究では、ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなど、導入の工夫を行いながら、ゲストティーチャーをはじめ様々な手立てを講じることで、人の生き方や考え方を学習したり、人材を活用したりすることが教材の本質につながると考えた。

上益城では、熊本地震において、本県最大級の震災を経験することとなった。そこには、復興や絆を取り戻そうとする人々の姿や、その現実に対応し、問題解決に取り組もうとする人々の姿があった。そこにも、社会科で目指す人間像があった。そこで、本研究では、それらの教材化も重点的に行っていくこととした。

視点2 「主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動」

主体的な学びのためには、児童が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要である。そこで、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童による表現を促すようにすることなどが重要である。

対話的な学びとして、人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決していく姿を調べたり、話を聞いたりする活動を設定していく。

これらを踏まえ、深い学びの実現のために、「社会的な見方・考え方（視点や方法）」を用いた考察、構想（選択・判断）や説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追求したり解決したりする活動を行っていく。

視点3 「児童の学びを見取り、確かな力をつける評価」

評価活動では、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握したりすることを大切にし、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善を生かしたり、様々な達成状況の児童に対して個別指導を行ったりする目安とする。

本研究部会では、めざす児童像に即して、児童の発言やノート、振り返りなど、一時間一時間の学習活動の中から、児童の変容を見届けていく。そして、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握していく。

そのために、現実的、継続的な評価が可能となる様々な方法を検証するものとする。また、児童の取組や育ちを刻々に見取り、励ましながら自己評価や自己変容の記録、児童同士による相互評価等を充実させたい。

(2) 成果と課題

【成果】

- 1月に実施した県小社研上益城大会を見据え、4つの学年部に分かれ、それぞれの学年部で年間を通して「学習指導案作り」を行うことができた。また、第2回教科等研究会の中で、学習指導案を他郡市の先生方にも提案し、意見を交流し合ったことで、上益城大会に向け、よりよい学習指導案作りにつなげることができた。
- これまで本研究部会がこだわってきた『人間の生き方に迫る教材開発（視点1）』を、どの学年でも大事にし、実践することができた。第3回教科等研究会では、4年部が授業を提案し、子どもたちは、阿蘇市の人々の思いや生き方に触れ、学びを深めることができた。
- 新学習指導要領のキーワードでもある「主体的・対話的で深い学び」の実現を、本研究部会の研究の視点2に位置づけ、どの学年においても、問題解決的な学習を実践することができた。
- 事前研究会、授業研究会でも活発な意見交換を行うことができた。

【課題】

- 本研究部会のめざす児童像に即して、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握していくことに努めてはいるものの、評価の方法、指導に生かす評価の在り方等、まだまだ改善していく必要がある。
- 新学習指導要領への移行を踏まえ、上益城の地域素材を活かした授業づくりをさらに進めて行く必要がある。今後も、誰にでもできる社会科の授業づくりを目指していきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名 「特色ある地いきと人々の暮らし
～伝統や文化を生かしまち 阿蘇市～」(東京書籍 新しい社会 3・4年下)

【研究の視点との関連】

視点1 「人間の生き方に迫ることのできる教材開発」

- 熊本地震による阿蘇神社の倒壊、観光客の減少などの被害から、復旧・復興に取り組む人々の思いや願いを考慮を通して、阿蘇神社を保護・活用しながら、協力してまちづくりを進めている人々の生き方に迫る。

視点2 「主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動」

- 阿蘇神社や門前町の様子、そこで暮らす人々の写真や映像などの資料を多く準備することで、児童の学習意欲につなげ、主体的な学びを促す。また、自分たちの住む上益城も復興へ向かう同じ被災地であるため、上益城と比較したり、自分たちの暮らしと重ねたりしながら対話的で深い学びにつなげる。

視点3 「児童の学びを見取り、確かな力をつける評価」

- 毎時間の学習活動で振り返りの時間を確保する。学習を通して学んだことや考えたことを振り返ることで児童の変容や思考の流れを読み取り、次時の指導改善に生かしたり、個別指導を行う目安としたりする。

【自評】

- 子どもたちは阿蘇神社に行ったことがなく、身近にとらえさせることや自分とどう重ねさせるかが難しかった。
- 何に対しての思いなのかが明確ではなく、また、インタビューからメモなどもできなかったため、まちづくりに向けた思いや願いを広げることができなかった。
- まとめで、「協力」、「阿蘇神社を生かした」という点を上手く引き出せなかった。

【質疑応答及び研究協議】

質) 導入で、どのように阿蘇神社と子どもたちと出合わせ、気づきを持たせていったのか。

応) 阿蘇神社の桜門の大きさ・歴史・観光客数、門前町などは、教師側から提示したが、意欲を高めることが難しく、上手く出合わせることができなかった。

質) 阿蘇神社だけに絞っていく方法は考えなかったのか。

応) 阿蘇神社を生かしたまちづくりを目指した。阿蘇神社を中心としたまちづくりは見つけることができず、阿蘇神社を活用したまちづくりに目を向けさせたいと考えた。

意) 阿蘇神社の復興か、門前町の取組か、この2つの取組が一体ではない難しさがある。

意) 「伝統や文化を生かすまち」としては、阿蘇神社を中心にするべきという意見が夏季研の中で出てきたが、神社と門前町が一緒になった取組は見つけることができなかった。

意) 銅銭糖を扱うのが自然の流れだが、伝統や文化という視点で阿蘇神社と考えた。町の人からは、是非取り上げて欲しいとのことだったので、大事に取り組みたいという思いがある。

意) インタビューの3人は多かった。教師側で、話の要点やキーワードを貼っていったが、インタビューを途中で切りながら聞かせてもよかった。聞く前と後とでは、子どもたちのテンションがさがってしまった。

質) 阿蘇神社を生かしたまちづくりのイメージがしにくい。どんな捉え方をしているのか。

応) 震災があって、元の状況に戻すために阿蘇神社を生かすことで観光客が戻ってくるという取組であるとイメージした。

意) 特色あるまちづくりだから、地震を混ぜないで考えてもよかった。しっかりと考えた後に、地震を付け加えて考えさせる形でもよかった。

意) 地域の活性化とは地域を好きになること。好きだから活性化していきたいという思いがある。甲佐にもいろいろある。そこを子どもたちにつかませていくことが大切。

意) 「賑わっていない」、「元気がない」。では、どうやって元気にしていくのかを考えさせ、自分のまちへとつなげていく。

【助言・まとめ】

- 予想して、思考して、話し合う場面が必要。インタビューが3人、キーワードが16個もあり多すぎたので、もう少し絞り込んで思考させるようにするとよかった。
- 視点1が人間の生き方。震災を入れると、どうしても地震後の復興に目が向いてしまうので、震災前の取組を見つける中で、生き方に迫る教材が開発できる。
- 子どもたちが、めあてに沿って、しっかりと考えることのできる資料の準備が大切。
- 評価をどのように行っていくかが課題。仮説の検証をしっかりと行って欲しい。

(2) 学習指導案

ア 単元の目標

- ① 阿蘇市の人々の生活に関心を持ち、阿蘇神社を保護・活用しながら、特色あるまちづくりをしていることを理解する。
- ② 阿蘇市の人々のくらしから学習問題を見だし、阿蘇神社を保護・活用しながら、特色あるまちづくりをしている人々の生活の様子を、地図や資料、インターネットの活用などを通して調べ、白地図やワークシートにまとめるとともに、阿蘇市の特色を考え、適切に表現する。

イ 単元の指導計画(8時間扱い)

	時数	主な学習活動	評価の観点
1	①	○阿蘇神社について気づいたことや疑問に思うことを出し合い意欲を高める。	関意態
2	①	○阿蘇神社がどんな神社なのか、パンフレットなどの資料をもとに調べる。	技・思判表
3	②	○熊本地震前後の阿蘇神社の写真から、復旧に向けた取組を調べる。	技・知理
4	②	○阿蘇神社を生かした阿蘇市のまちづくりの取組について調べる。	技・知理
5	①本時	○震災後の門前町の人々の復興への思いとこれからのまちづくりについて考える。	思判表
6	①	○阿蘇神社を守ったり、生かしたりする取組について調べたことをまとめる。	関意態・技

ウ 本時の学習

〈目標〉

- ・ 震災後の阿蘇市の人々の、阿蘇神社を中心としたこれからのまちづくりに向けた思いや願いについて考えることができる。

〈展開〉

時間	学習活動	主な発問や指示	教師の指導・支援・評価	備考
2	① 前時を振り返る。	○阿蘇神社を生かした取組にはどんなものがありましたか。	・阿蘇市の人々の阿蘇神社を生かした取組を見せながら振り返る。	写真
5	② 震災後の観光客数の変化について話し合う。	○観光客数の変化を見て、気づいたことを話し合しましょう。	・熊本地震の影響により観光客数が減っていることをつかませる。	グラフ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>◎ 震災後、阿蘇市の人々は、これからどんなまちづくりをしているのかを考えよう。</p> </div>				
5	③ 震災後の門前町の人々の思いや願いを予想し、話し合う。	○観光客が減ってしまった阿蘇市の人々は、どんな思いや願いを持っているだろう。	・門前町の人々にとって、観光客の減少が、生活に大きく影響することを捉えさせる。	学習シート
8	④ 阿蘇市の人々の思いや願いをインタビュー映像から考える。	○インタビュー映像を見て、阿蘇市の人々の思いや願いを考えてみましょう。	・インタビュー映像から阿蘇市の人々が、震災後も魅力あるまちづくりに向けて、阿蘇市のよさを生かしながら取り組んでいることに気づかせる。	映像
15	⑤ 阿蘇市の人々の思いや願いについて話し合う。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【思・判・表】 震災後の人々の思いや願い、これからのまちづくりに関して、映像資料をもとに考えることができる。</p> </div>	
5	⑥ 本時の学習をまとめる。	○今日の学習のまとめを書きましょう。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>○阿蘇市の人々は、震災後もおたがいに協力して阿蘇神社を生かしたまちづくりを目指している。</p> </div>				
5	⑦ 本時の感想を書く。	○今日の学習の感想を書きましょう。	・本時の学習を通して、学んだことや考えたことを書かせる。	

